

〔類聚名物考 地理二十〕富士野 ふじの 駿河國

不二山、富士峯、川、沼、入江等、同所なり、野はすなはち山の麓にて、裾野といふ是なり、そこに江も沼も有るなり、

〔吾妻鏡 十三〕建久四年五月八日癸酉、將軍家頼朝源為覽、富士野藍澤夏狩、人々赴駿河國給、十五日

庚辰、藍澤御狩事終、入御富士野御旅館、十六日辛巳、富士野御狩之間、將軍家督若君始令射鹿給、

廿八日癸巳、故伊東次郎祐親法師孫子、曾我十郎祐成、同五郎時宗致推參于富士野神野御旅館、

殺戮工藤左衛門尉祐經、略下

〔曾我物語 八〕ふじの、かりばへの事

そのほかす千ぎのいで立、花をおり、月をまねくよそいひ、ひろきふじ野も所なくみえし、略下

〔續古今和歌集 羈旅 十〕後堀河院御時、うへのをのことも、月前旅といふことをよみ侍けるに、

前大納言資季

都をば山のいくへにへだてきてふじのすその、月をみるらん

〔夫木和歌抄 沼 二十四〕建長七年顯朝臣家千首沼、春駒、ふじ、沼、駿河、

源仲遠

春草はかりかふばかりなりにけりふじの、沼に駒やとめまし

〔遊囊贖記 二十二〕武藏野ハ、相模ノ境都築郡ヨリ、上野ノ境賀美郡ヘツゞキ、延袤二三十里、高平曠

遠ノ總名ト知ベシ、サレド別テ武藏野ト稱スルハ、多摩入間兩郡ニ跨ギタル府中川越ノ間ヲ限

ルニ似タリ、今此左右六七里ヲ巡覽スルニ、開墾ノ地頗多ク、百姓布野ノ勢アルハ、實ニ太平ノ美

談也、

〔武藏名所考 一〕武藏野

按ずるに、古歌にむさし野のつゞきの郡、むさし野の堀兼の井、むさしの、をかへの原などよめ